

エコプロダクツ③

物流における環境配慮

モーダルシフトの推進と輸送効率の向上

日立化成グループでは、製品・材料を運搬する物流会社と連携し、モーダルシフトの推進や輸送効率の向上によるCO₂排出量の削減に努めています。さらに、お取引先に対しても納入時のCO₂などの排出をできるだけ抑制する方法の検討を要請しています。

また、2006年4月に施行された改正省エネ法で特定荷主に指定されている事業所のみならず、各事業所における輸送効率調査を進めています。

製品・原料輸送時の安全確保

日立化成グループでは、製品の輸送中に緊急事態が発生した場合の措置方法を記載した「イエローカード」（緊急連絡カード）を発行するとともに、緊急時の応急措置などを明記したラベル「容器イエローラベル」を採用し、危険物、毒劇物などの化学物質を含む製品輸送・使用時の安全確保に努めています。また、製品原料を納入いただくお取引先に対してもイエローカードの携帯を要請しています。

自家保有自動車の削減と低公害車の導入

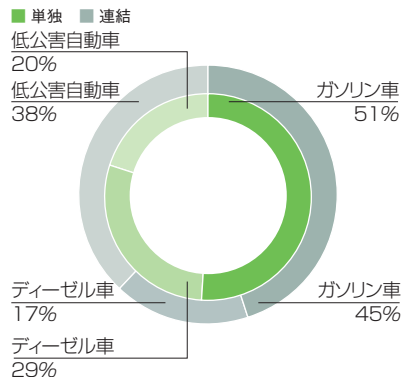
日立化成グループでは、自家保有自動車^{※1}の台数削減とともに、保有台数における低公害自動車台数比率の拡大を進めています。2005年度における製造事業所の自家保有自動車台数は単独258台、連結769台となり、そのうち低公害自動車比率^{※2}は単独20%、連結38%となりました。

また、各営業所では、営業車をCO₂排出量がガソリン車比50%のハイブリッド車など低公害自動車に転換する取り組みを積極的に進めています。

※1 自家保有自動車：乗用車、バス、マイクロバス、トラック、バン、消防自動車、フォークリフトほか

※2 低公害自動車比率：電気自動車、ハイブリッド車などの低公害自動車台数÷自家保有自動車台数

自家保有自動車の低公害自動車比率
(2005年3月31日現在)



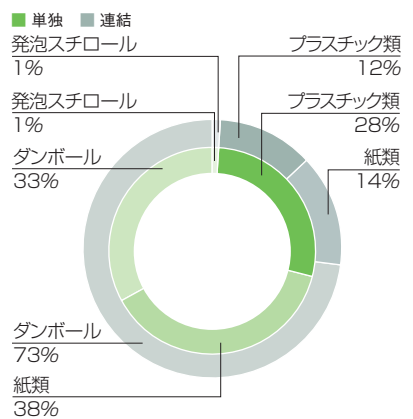
包装資材の削減

日立化成グループではサプライチェーン全体における包装資材の削減に取り組み、製品梱包材の廃棄量削減を考慮したプラスチック製通い箱などのリターン包装資材やリサイクル可能包装資材の使用をはじめ、専用コンテナの導入などを積極的に進めています。

2005年度はHitachi Chemical Electronic Materials (Korea) Co., Ltd. (韓国)においてフィルム製品の梱包材の一部であるプラスチック材セパレーターを廃止するなど、海外グループ会社でも取り組みを強化しました。

2006年度は包装資材使用量を2005年度比1%削減するという目標を立て、通い箱への切り替え、製品包装の簡素化をさらに進めていきます。

包装資材使用内訳 (2005年度)



スチレン樹脂リサイクル技術 リサイクル発泡ポリスチレンビーズ「リサイプス®」

日立化成では、容器包装リサイクル法に対応して、バージン材料と同等の機械的物性と優れた成形品外観を有しながら、エコマーク認定の基準を満たし、また製造時のエネルギー消費量およびCO₂発生量をバージン材料の6割程度に低減したリサイクル発泡ポリスチレンビーズ「リサイプス」を2003年から販売しています。

現在、この製品は包装用発泡ポリスチレンをリサイクルして製造しています

が、家電リサイクル法の施行により増加している使用済み冷蔵庫の棚、仕切り板、トレーといった廃家電のスチレン樹脂成形品の発泡ポリスチレンビーズへの再加工を検討した結果、技術上ほぼ可

能であることを確認しました。今後は、家電メーカー、再生処理業者などと連携し、より環境にやさしく、経済的な家電廃材などの回収・リサイクルシステムの構築を進めていきます。

日立化成の発泡ポリスチレンリサイクルシステムの概要図

